

脳の発達における可塑性と安定性のジレンマ

Plasticity vs. Stability Dilemma across critical period in visual cortex

日時：平成21年6月30日(火) 13時半-15時
場所：研究棟7階 談話室

森下 博文 先生
(ハーバード大学医学部・Hensch研究室研究員)

脳神経系は発達の臨界期から成体に至る過程で、可塑性(Plasticity)から安定性(Stability)へと絶妙にバランスがシフトすることで環境に最適化したシステムを構築します。ハーバード大学医学部のHensch先生と森下先生のグループはこの過程の分子機構として、成体において可塑性を積極的に妨げる分子群molecular “brakes” (myelin & anti-nicotinic signaling)が増加することを明らかにされました。このMolecular “brakes”の除去により、成体における障害の回復が可能になる(Morishita & Hensch 2008)、一方、安定性の喪失に伴う過剰な可塑性の持続が、統合失調症等の病因となる可能性についてもお話いただけます。



連絡先
生体物質構造学| 樋口芳樹(内線509)

TEL : 0791-58-0179
E-mail : hig@sci.u-hyogo.ac.jp